

の視覚情報それぞれ、または双方に強く反応する脳の部位を探索。すると文字中枢を形成する左脳の下側頭回後部と紡錘状回のうち、下側頭回後部の一部が文字と発音を関連付ける際に、活発に働くことが分かった。

この部位の隣には仮名文字と音声の組み合わせに固有に反応する個所があることから、外国語などを学ぶ際には、文字中枢の一部がその文字に特化すると結論付けた。

文字部  
の中枢  
脳の中

## 読み書き専門機能担う

東大などが解明  
新しい文字の習得で

外国語などの新しい文字を習得する際、脳の中で読み書きの能力をつかさどる「文字中枢」の一部が新しい文字の読み書き専門の機能を担うように

なることを、酒井邦嘉東京大学大学院助教らが突き止めた。新しい文字の発音と文字そのものを関連付けて覚える段階になると、左側頭葉の

後部にある「下側頭回後部」が活発な働きを見せ、その文字の読み書きを専門につかさどるようになるという。会話は普通にできて文字も一つひとつは認識できるのに、文章になると読めなくなってしまう「読字障害」の治療や外国語学習の効率化につながりそうだ。

これは科学技術振興機構（JST）の研究プロジェクトの研究成果。日本語を母国語とする学生らに、ハンゲル文字とその発音を覚えさせて脳の様子を調べた。

その際に似た発音の日本語の仮名文字も同時に示し、課題のハンゲル文字とまったく同じ発音かどうかを答えさせ、音声情報と記号としての文字